

St. Luke's International University Repository

Preparation Necessary for Conducting Field Research in Tanzania: Cultural Understanding, Ethical Clearance, and Safety Management

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新福, 洋子, 下田, 佳奈, 堀内, 成子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/13150

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



短 報

タンザニアでフィールド研究を実施するために必要な準備：
文化的理解・倫理審査・安全対策新福 洋子¹⁾ 下田 佳奈¹⁾ 堀内 成子¹⁾Preparation Necessary for Conducting Field Research in Tanzania:
Cultural Understanding, Ethical Clearance, and Safety ManagementYoko SHIMPUKU¹⁾ Kana SHIMODA¹⁾ Shigeko HORIUCHI¹⁾

〔Abstract〕

St. Luke's International University Women's Health and Midwifery started the Asia Africa Midwifery Research Center in 2011 and has been conducting education and research in Tanzania. When conducting field research in another country, it is necessary to receive official permission, to collaborate with local assistants, and to understand a different language and culture. In Tanzania, it is required to receive : 1) Ethical clearance from the National Institute of Medical Research (NIMR), 2) Research permit from the Tanzania Commission for Science and Technology (COSTECH), and 3) Resident permit from the Immigration Office. For graduate students, it is also required to receive permission from a national research institute that provides research agreement. In order for graduate students to conduct research alone in the field, we prepare for an agreement report to thoroughly share safety information. Although a variety of preparation is required to conduct research safely and ethically in another country, the process is important to increase significance of research.

〔Key words〕 international collaborative research, research ethical clearance, Tanzania

〔要 旨〕

聖路加国際大学ウイメンズヘルス・助産学研究室では、アジア・アフリカ助産研究センターとして、2011年よりタンザニアとの教育研究事業を展開してきた。海外をフィールドに研究をする時、その国での正式な許可を取得し、現地のアシスタントと協働しながら、文化と言語を超えて研究をすることが求められる。タンザニアでは研究を行う前に、医療に関する研究の場合、現在必ず1) National Institute of Medical Research (NIMR) の研究倫理審査、2) Tanzania Commission for Science and Technology (COSTECH) の研究許可、3) 移民局での滞在許可 (Resident Permit) を得ることが求められている。大学院生の場合は、協定を組んでいる国立研究機関での許可を得てから NIMR に提出するプロセスが必要である。大学院生が一人で渡航をしてフィールド調査をする場合、調書を準備し、安全情報の共有を徹底している。海外で安全に倫理的な研究を行うために必要な準備は多岐にわたるが、そのプロセスを正しく踏んでこそ研究の意義が高まると考えられる。

〔キーワード〕 国際共同研究, 研究倫理審査, タンザニア

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

I. はじめに

聖路加国際大学ウィメンズヘルス・助産学研究室では、アジア・アフリカ助産研究センターとして、2011年より日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業、2015年より同研究拠点形成事業B型を受託し、タンザニアとの教育研究事業を展開してきた¹⁾。海外をフィールドに研究をする時、その国での正式な許可を取得し、現地のアシスタントと協働しながら、文化と言語を超えて研究をすることが求められる。歴史的に植民地経験のある国では、外国人に対する厳しい研究許可申請プロセスを課していることもあるが、その国の主権を尊重するためにも、決められたルールは守るべきである。しかしそのプロセスを踏む、もしくは指導をすることには、ルールの変動や役所の職務の遅れなどの困難が付いて回る。以後タンザニアのみならず海外で研究をする、またその指導をする研究者が少しでも複雑なプロセスをイメージできるよう、これまでの経験を記述する。本稿の記述は2017年8月に研究を遂行した時点での情報で、常に変わる可能性があることも留意されたい。

II. 研究計画書作成時の準備

1. 現地状況の把握

まず研究を計画する際、文献検討のみならずフィールドに足を運んだ上で研究計画を立てる、現地にいる研究者と連絡を取りながら計画を立てる、もしくはフィールドに足を運んだ研究者の指導の下に計画を立てることが望ましい。開発途上国の医療システムは、海外からの援助が入ることもあり、変化が著しいため、数年前の経験や文献から構築した研究計画が渡航時に現状とずれている可能性がある。申請に際し、データ収集時期よりも早く渡航し、現地の担当教員と計画書について面と向かって話し合う必要がある。研究に対する考え方や使用する用語は、学問分野、教育を受けた国によって異なる場合があり、その違いを話し合いによって計画書上合わせていく必要がある。

2. タンザニアの研究倫理審査の特徴

タンザニアでは研究を行う前に、医療に関する研究の場合、現在必ず1) National Institute of Medical Research (NIMR)の研究倫理審査、2) Tanzania Commission for Science and Technology (COSTECH)の研究許可、3) 移民局での滞在許可 (Resident Permit)を得ることが求められている。大学院生の場合、協定を組んでいる国立研究機関での許可を得てからNIMRに提出するプロセスが必要である。以下にそれぞれの方法を記す(表1)。

1) National Institute of Medical Research (NIMR)

NIMRはダルエスサラームのBarack Obama Driveに位置する国立最大の研究機関であり、国内の医療系研究の倫理審査を行っている。必要書類を必要部数揃えた後、先に振り込みを済ませた銀行のレシートと共に提出する。レビューワーのコメントが届いたら、修正し、修正箇所のサマリーを付けて再提出する。レビューワーの承認が降りれば、NIMRからの証書を受け取ることができる。研究に変更があればAmendmentを初回のレビューと同じ数の書類を揃えて提出し、プロセスを踏む。期限が1年であるため、それ以上研究する場合は更新する。

2) Tanzania Commission for Science and Technology (COSTECH)

COSTECHは市内からBagamoyo Roadを北上し、Science Junction(スワヒリ語でサヤンシ)というバス停の角に見える黄色の建物で、医療系に限らず全ての研究許可を申請する機関である。NIMRの証書がある場合はレビュープロセスが簡易で、必要書類を提出し、レビューが終わった後、振り込みを済ませた銀行のレシートを持参すると、写真付きの研究許可書、滞在許可申請用の捺印のあるTIF1フォーム、推薦レター、データシートを受け取ることができる。推薦レターは州県庁保健課長宛てにcc(カーボンコピー)が含まれており、研究を始める前にそれぞれの保健課にレターを提出する必要がある。COSTECHも期限は1年であるため、1年毎に更新する。

3) 移民局(表2)

現在ダルエスサラームには移民局が2つある。Kurasiniと呼ばれるダルエスサラームからバスを乗り換えて行く移民局と、市内郵便局(Posta)の裏にある内務省(Ministry of Inner Affair)の中にある移民局である。最初にKurasiniの移民局に書類を提出し受領証をもらう。書類の確認に14営業日ほどかかり、受領証を持参して窓口で確認し、支払いに進む。支払い後さらに2週間ほどで、滞在許可書が発行される。滞在許可書のコピーを取り、パスポートと共に内務省の移民局の窓口10番に提出し、1時間ほど待つと、パスポートに再入国許可の記載がされる。期限までは入国にビザが不要となる。

III. 文化的尊重と研究にかかる経費の準備

医療系のフィールド調査の場合、文化的な理解のあるリサーチアシスタントがいることが望ましい。タンザニアには挨拶が非常に重要とされる文化があるが、ムヒンビリ国立病院の場合、病棟の長はNurse in charge、診療科毎の統括をするBlock manager、看護部長(Director of Nursing Service: DNS)に挨拶し、データ収集の了承を取る必要がある、その際に顔見知りである人物からの紹介が重要である。フィールドでも、県の保健課長(District

表1 タンザニア研究倫理審査プロセス

<p>0) ムヒンビリ健康科学大学 (MUHAS) (大学院生の場合)</p> <p>担当の MUHAS 教員と面接を複数回行い、教員の許可が出たところで、教員あるいは自分で研究計画書を提出する。 提出先：Haile Debas Centre For Health Professions Educations (HDCHPE) の3階、Directorate of Research and Publications 新規の提出時には、以下の書類を3部コピーして提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムヒンビリ大学のコラボレーターのカバーレター (自分自身のものは不要) ・研究計画書 (すべての Appendix を含む) 審査にあたって、必ず以下の項目を以下の順番で含むこと。 Table of contents, Abbreviations, Definition of terms, Abstract Introduction : Background, Statement of the problem, Rationale, Goal, Objectives, Conceptual framework, Literature review Methods : Research design, Setting, Study population, Sample size, Sampling method, Inclusion and exclusion criteria, その他 Dissemination of research results, Study limitation and mitigation, Work plan (ガントチャート), Budget, Budget justification, References ・申請料支払いの銀行振り込みレシートのコピー <p>費用：通常250USD, 迅速500USD 初回提出前に支払いは銀行 Transfer で済ませる。 振込先：NMB Muhimbili Branch No. 2091100002 Swift code: NMIBTZTZ MUHAS</p>
<p>1) NIMR (医療系の研究の場合)</p> <p>新規、内容の変更や追加がある場合、以下の書類を5部コピーして提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カバーレター (大学のヘッダーがあるもの、自筆のサインをする) ・タンザニアのコラボレーターのレター (MUHAS 等研究機関の許可書がある場合は添付) ・アプリケーションフォーム (HP http://www.nimr.or.tz/ethical-guidelines/ から取得して電子的に記入) ・プロポーザル (英語、スワヒリ語で実施するものはスワヒリ語化したものも付ける), CV (研究者、指導教員、タンザニアのコラボレーター) ・バジェットシート (費用の額とそれらを何に使用するのが記載), スケジュールシート (いつの時期に何をするのが記載, ガントチャート) ・審査費用の銀行振り込みレシートのコピー <p>費用：外国人研究者は登録料100USD + 行う研究の種類により値段が異なる。一般の健康に関する研究は、500USD (学生250USD) 振込先：NBC Samora Branch Avenue, A/C No. 012105009961 Swift code: NLCBTZTX-NIMR</p>
<p>2) COSTECH (全ての研究に求められる)</p> <p>COSTECH 専用のフォームを記入し、提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50USD の審査費用デポジットをした銀行振り込みレシートのコピー ・Curriculum Form, Application Form, CV, タンザニアのコラボレーターのレター ・証明写真 (パスポートサイズ3枚) ・プロポーザル (abstract; introduction; literature review; research problem; objectives; methodologies, research beneficiaries and bibliography) <p>レビューが終わったら残りの300USD を銀行に支払い、その振り込みレシートを持参すると、写真付きの許可書が取得できる。 振込先：Beneficiary: TANZANIA COMMISSION FOR SCIENCE AND TECHNOLOGY Bank: NATIONAL BANK OF COMMERCE LTD Branch: SAMORA AVENUE A/C No.: 012105018998, Swift Code: NLCBTZTX, Currency: USD 延長手続きは、日本学術振興会の HP 参照 (http://www.jspsnairobi.org/tanzania)</p>

表2 タンザニア滞在許可取得プロセス

<p>3) 移民局 (Immigration)</p> <p>①書類提出</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) COSTECH からの推薦レターの原本 (1部) 必ずコピーを控えておくこと 2) 調査許可証のコピー (1部) 3) Data Sheet (1部) (COSTECH から受け取った際に、COSTECH 担当者の署名が入っていることを確認すること) 4) パスポートのコピー (顔写真と入国スタンプのページを1部ずつ) 5) 申請書 (2部) フォーム, TIF 1 (COSTECH から捺印されたものが1部渡されるため、記入してコピーする) 6) 履歴書 (1部) COSTECH に提出したものと同一でよい 7) 最終学歴の証明書コピー (1部) 学部や大学院の英文卒業証明書 (既卒者) あるいは、英文在学証明書 (学生) 8) 証明写真 (パスポートサイズ6枚) すべての裏に名前とサインを記入する。必ず背景は青。現地で撮影すると容易。 9) 申請料金 550USD ※500USD は許可料, 50USD は再入国許可 (Re-Entry Pass) <p>※書類の提出先：中央受付挟んで左側の部屋に直接入る。クラス C の受付に書類を直接提出する。 提出すると、その場で書類を確認され、所属を確認されたら [under COSTECH] と答える。書類の確認が済むと、受領書が渡される。</p> <p>②受領書に、指定された日 (およそ14営業日) に再度移民局を訪問し、プロセスが終了していたら、料金カウンターで料金を払う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ①と同じクラス C の窓口に行く。前回の受領書を提出し、プロセスが終了しているかどうか確認する。 2) 終わってれば支払い用紙を渡される。玄関の中央受付挟んで右側の部屋、奥から2番目のカウンターに行き、支払い用紙を出す。 3) 元の左の部屋に戻り、一番奥の CASH カウンターで支払う。 4) その後、一旦移民局の外に出て、領収書のコピーを取る。 5) コピーを持って再度、右の部屋の奥から2番目の窓口に戻る。 6) 2週間後 (例：支払いが9月5日なら、9月16日以降) に受け取りに来よう指示され、終了。領収書の受け取りを忘れずに。 <p>※2)~6) は、順序等入れ替わる場合があるので、その場で確認を。必ず次々に行けばいいのを確認し、指示に従うこと。</p> <p>③滞在許可証を受け取る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ②で指示された日に移民局を再訪し、当日の9~10時以降になると、その日に発行される滞在許可証のリストがファイルに挟まれる。 (ファイルは、中央受付挟んで左の部屋の入口入ってすぐ左においてある。) 2) 自分で、そのファイルの中を開けて、その日あるいは前日までの発行されたリストに、自分の名前と COSTECH という記載があるかどうかを確認する。 3) リストに記載があれば、クラス C 窓口のすぐ左にある窓口 (発行された書類を渡すだけの専門の窓口) に行き、発行日 (自分の名前が記載されたリストの日付) と名前を伝え、滞在許可証が発行される。
--

Medical Officer : DMO, もしくは District Nurse Officer : DNO) また病院長に挨拶が必要であり、同行するタンザニア人アシスタントがいることが望ましい。挨拶のプロセスに時間がかかり、アシスタント謝金に経費がかかる。

研究対象によって使用言語がスワヒリ語となれば、質問紙やインタビューガイド、データの翻訳が必要となる。自らがスワヒリ語を学習したとしても、翻訳の正確性を確保するには、ネイティブスピーカーの確認が必要にな

表3 タンザニアで実施された学位研究論文

修士論文	
Exploring breastfeeding behavior and education of mothers with low-birth-weight baby discharged from Muhimbili National Hospital in urban Tanzania: A longitudinal survey (多田恭子) Evaluation of the behavior change of midwives after introducing Early Essential Newborn Care at an urban Tanzanian healthcare facility (福富理佳)	2017年度
Evaluation of an educational program for nurses about birth preparedness and complication readiness in rural Tanzania (岡美雪)	2015年度
Comparing the questionnaire outcomes with cognitive interviews after a reproductive health program among adolescents in rural Tanzania (川野嘉子)	2014年度
Evaluation of a reproductive health awareness program for adolescents in rural Tanzania - A quasi-experimental pre- test post- test research - (糸川愛子) ²⁾ Midwives' expectations and learning needs for professional development in Tanzania (田中菜央) ³⁾ Midwives' intrapartum monitoring process and management resulting in emergency referrals in Tanzania (下田佳奈) ⁴⁾	2013年度
博士論文	
An education program for pregnant adolescents using peers in Tanzania: A quasi experimental study (Beatrice Mwiliike) ⁵⁾	2017年度
Prevalence of and factors relating to nurses' and midwives' self-reported disrespect and abuse of women during facility-based childbirth in Tanzania (下田佳奈) ⁶⁾	2016年度

る。

研究対象者への謝金は、高額になると研究参加への強制力が働くため、倫理的な観点からも現地の収入レベルに合わせる必要がある。タンザニアでは研修には日当(per diem)を支払う制度になっており、学位や職位によって額が異なるため、その基準に合わせる必要がある。

前述の研究許可の申請に際しても、それぞれに費用がかかる。NIMRに関しては、タンザニア人と外国人で費用の額が異なり、外国人には高額に設定されており、毎年一定額を申請費用として確保しなければならない。

タンザニアにおいては支払いにタンザニアシリングと米ドルが用いられる。日本円からの両替のレートによって経費が増減することも考慮に入れなければならない。

経費は、大学から院生の国際奨学金(旅費・宿泊費)の支給を受けた他、我々は、2011-2013年度にJSPSアジア・アフリカ学術基盤形成事業、2014年にファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究助成、2015-2017年にJSPS研究拠点形成事業を受託した。また、教員自身の科研費も並行してJSPS研究活動スタート支援(2011-2013年、代表:新福洋子)、若手研究(B)(2014-2016年、2017-2019年、代表:新福洋子)、挑戦的萌芽研究(2011-2013年、代表:堀内成子)の獲得と実行を計画的に行ってきた。

IV. 安全に留意して調査するための準備

本センターでは、タンザニア渡航前に外務省たびレジへの登録を必須とし、現地の安全情報を収集するほか、在タンザニア日本大使館に渡航を報告している。本学では現在青年海外協力隊の派遣事業を行っているため、安全研修を受けた隊員たちからの情報提供、協力を受けて研究に臨むことができる。

また、大学院生が一人で渡航をしてフィールド調査を

する場合、調書を準備している。調書の内容には、調査日程、大学院生が単独で行わなければならない業務内容とその理由、事前オリエンテーション内容(調査での安全性、安全のための心得、健康管理、服装と持ち物)、現地での安全確保の方策、現地での事故・災害に遭った場合の対策を含んでおり、事前に安全に関する情報共有を徹底している。

V. これまでにタンザニアで展開された研究

本センターでは、2011年から2017年までに、思春期教育、妊娠期教育、人間的な出産、伝統的産婆との協働、新生児ケアの改善、助産師のキャリア開発という6種類の研究プロジェクトを展開してきた。博士課程1名、修士課程5名の大学院生が学位を修め、2017-2018年度現在は、博士課程1名、修士課程3名の院生が研究活動を継続中である。また、オープンアクセスの国際学術誌への投稿も積極的に進んできた。学位論文を英文で提出することは、国際誌投稿への意欲につながる(表3)。

VI. おわりに

妊産婦死亡率、乳幼児死亡率の高さや助産師の労働環境、キャリア形成など、日本以上に課題の大きい諸外国の問題に取り組む場合、研究の意義は大きいですが、結果を得るために必要なプロセスの困難がある。本稿によって研究者が倫理的に正しいプロセスを踏み、更にその困難が少しでも緩和されることを願っている。

謝辞

本稿はJSPS研究拠点形成事業(2015-2017年、代表:堀内成子)の助成を受けて実施している事業内容を元にまとめたものである。

引用文献

- 1) Shimpuku Y, et al. Global collaboration between Tanzania and Japan to advance midwifery profession: A case report of a partnership model. *J Nurs Educ Pract*. 2015 ; 5(11) : 1–9.
- 2) Tohi A, et al. Overcoming barriers to inclusive education: A reproductive health awareness programme for adolescents in rural Tanzania. *African Journal of Midwifery and Women's Health*. 2016; 10(1) :27–32.
- 3) Tanaka N, et al. Career development expectations and challenges of midwives in Urban Tanzania: a preliminary study. *BMC Nurs*. 2015 ; 14 : 27.
- 4) Shimoda K, et al. Midwives' intrapartum monitoring process and management resulting in emergency referrals in Tanzania: a qualitative study. *BMC Pregnancy Childbirth*. 2015 ; 15 : 248.
- 5) Mwilike B, et al. A feasibility study of an educational program on obstetric danger signs among pregnant adolescents in Tanzania : a mixed-methods study. *International Journal of Africa Nursing Sciences*. 2018 ; 8 : 33–43.
- 6) Shimoda K, et al. Midwives' respect and disrespect of women during facility-based childbirth in urban Tanzania: a qualitative study. *Reprod Health*. 2018;15 (1) : 8.